

vol.
053

障害社通信

2026年
1月号

1月になりました。1月は「睦月」（むつき）とも呼ばれ、新年を祝う行事（初詣、七草粥、鏡開きなど）や「正月」として親族が集まり仲睦まじく過ごす時期です。また、冬の始まりで寒さ（小寒、大寒）が厳しくなる時期でもあります。みなさんは誰とどんな年の始めを過ごしましたか♪

2026年も宜しく願っています

新年あけましておめでとうございます。

さて、2026年が幕を開けました。本年より、私たちの経営理念は新たな一步を踏み出します。社是である「自由・豊かさ・共生」はこれまでと変わらず大切にしながら、私たちはその先にある社会像として「共生社会のその先—共創社会の開拓者として、世界に感動の輪を広げる」ことを掲げました。これは決して言葉を新しくしただけのものではありません。「支える側」「支えられる側」という固定された関係を超え、誰もが主体として関わり、価値を共につくり出していくという、私たち自身の覚悟の表明です。

共創は決して容易な道ではありません。考え、対話し、ときに意見がぶつかることもあるでしょう。しかしその先にこそ、仕事が単なる作業ではなく、挑戦へと変わる瞬間があります。感動は、与えられるものではなく、自ら選び、踏み出した先に生まれるものだとは私たちは考えています。

2026年、問われるのは「何をするか」以上に「どう関わるか」です。私たちは、挑戦する人財を全力で支えながら、共に未来を切り拓いてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

社是

自由・豊かさ・共生

経営理念

私たちは 共創社会の開拓者として

世界に感動の輪を広げます

企業目的

一、私たちは 誰もが自由に生きること

何よりも大切に 支え合い続けます

一、私たちは 感動と挑戦を通じ

すべての人々の豊かさを追求します

一、私たちは 共生社会から共創社会を実現し

希望に満ちた社会を築きます

多摩ブルーグリーン賞を受賞しました

当社、株式会社障害社（代表取締役 安藤信哉）は、第23回多摩ブルー・グリーン賞（主催：多摩信用金庫）における多摩グリーン賞（経営部門）において、「多摩みらい賞」を受賞いたしました。

多摩ブルー・グリーン賞は、多摩地域の中小企業の優れた取り組みを表彰する制度で、技術・製品を評価するブルー賞と、経営モデルを評価するグリーン賞で構成されています。また、「多摩みらい賞」は、将来性のある取り組みを評価する賞として位置づけられています。

今年度は応募114件（ブルー賞45件・グリーン賞69件）の中から、弊社が選出されました。



■受賞理由

障害社は、障害のある方々が地域で主体的に暮らし働くことを前提とし、当事者の自己決定と運営参画を重視したセルフケアマネジメントを推進してきました。

多摩センターでは就労継続支援B型事業所を運営し、通所が難しかった知的・精神障害のある方にも働く機会を提供しています。

また、親亡き後を見据えた住まいづくりや地域生活支援体制の整備を進め、「囲い込む支援」から「開かれた支援」への転換を図っています。

これらの取り組みが「障害者の可能性を活かしたダイバーシティ・マネジメント」として評価され、今回の受賞に至ることとなりました。



講話を行うにあたって…

当社のユーザーで事務局員でもある薄井さんが、1月17日に町田市生涯学習センターで講演を行いました。講話の前に薄井さんと「資格講習事業所つばめ」の小田嶋所長にお話を伺いました。今回の講話は、学習センターから小田嶋所長への依頼がきっかけで、『「特別な人」ではなく、もっと身近で、隣にいなような当事者の方の普段の生活の話を聞いてみたい』というリクエストで始まったとのこと。依頼を受けた時、小田嶋所長は「この企画は薄井さんが適任だ。」と感じたそうです。薄井さんは、講話の仕事を打診され、講話は少し苦手意識があって不安だったものの、小田嶋所長の「薄井さんの明るさや前向きさを皆に知ってもらいましょう。」との言葉に嬉しくなり、ご自身の口癖「なんとかなるしょ。」も相まって、即引き受けたそうです。講話の準備の中で一番楽しかったことは、「薄井さんのこれまでの生活や思いを一番近くで聞けたこと、そして彼女の明るさを会場の



方々に届けられることが楽しみです。」と、小田嶋所長。「昔の写真を探してスライドにしたりしていると、つばめの皆さんと一緒に自分の人生を映画にしているようで、色々なことが新鮮に感じて感動しています。」と薄井さん。講話で薄井さんが一番伝えたいことは、『「人それぞれ違いがあって当たり前」ということです。私の違いは見てすぐに分かりますが、車椅子はずっと頼もしい相棒です。できること・できないことが人によって違うのは当然のことです。違いは不便でもありますが、誰かと繋がるきっかけにもなり、「違うけれどみんな同じ」と感じています。』と、話してくれました。



乾燥と褥瘡の冬ケア

寒さが深まる季節は肌が乾燥しやすく、血行も悪くなりがちです。乾燥した肌は摩擦に弱く、血行が滞ると皮膚に栄養が届きにくくなるため、褥瘡のリスクが高まります。この時期は日々



のちょっとした工夫を取り入れてみるのがおすすめです。栄養をしっかり摂って体調を整えたり、普段より少し長めに入浴して体を温めることで血行が促され、肌の状態も安定しやすくなります。乾燥を防ぐために、ヘパリンやワセリン、保湿クリームを朝や入浴後に塗っておくと、肌の状態が整ってトラブルを防ぎやすくなります。豆乳にきな粉を混ぜて飲むなど、体の内側から整える工夫を続けている人もいます。入浴の際に褥瘡ができやすい部分をラップで保護して摩擦を減らす方法も、身近で取り入れやすいアイデアです。



こうした小さな積み重ねが、冬の褥瘡予防につながっていきます。無理のない工夫を取り入れて、穏やかに過ごせる冬にしていきたいですね。

あなたの趣味を教えてください

福祉用具事業所IRSの藤重です。

趣味か!?と言われると微妙ですが・・・自然の多いエリアに自宅があるのですが、家族、特に子供が大の虫嫌いのため、自宅周りの掃除と害虫駆除が日課になっています。娘からは外遊び前に「確認しておいてね」と念を押されることもあり、気づけば作業は完全にルーティン化。季節ごとに方法や頻度を変えつつ、虫が苦手な自分自身のためにも念入りに行っています。最近は高压洗浄機による外壁掃除と予防にハマリ、使えるようなアイテムを求め、ホームセンターについて長居してしまいます。特に夏の駐車場コンクリート清掃は達成感があり、楽しみとなっています。家族からはなぜコンクリート？しかも夏？という顔をされますが😅😅



障害社
facebook



重度肢体不自由者のリアルな生活



Shogaisha stories

当社の様々な情報をSNSでお届けしています！
それぞれQRコードからご覧ください！

障害社通信について、みなさまのご意見をお聞かせください！！



株式会社 障害社

〒193-0021

東京都町田市中町1-2-14 フォレシア町田1階

TEL: 042-850-9141 / FAX: 042-850-9142

MAIL: info@shogaisha.co.jp

障害社HPは
こちらの
QRコードから

